

刊行にさいして

大学が有している情報を学内外の方々に提供し、いかに活用してもらうかが問われている。茨城大学附属図書館が所蔵する町方文書のひとつである「水戸下市御用留」は、附属図書館郷土史料双書として一九九一年以来、ほぼ毎年一冊ずつ刊行され、学内外の方に利用されてきた。

附属図書館が所蔵する「水戸御用留」は、全三十四巻の「水戸下市御用留」と、その他の御用留（館林藩林方及び日光奉行関係御用留）五巻合わせて三十九巻からなる。後者の御用留については性格が異なるため、今回の史料集には収められていない。本史料集は、水戸市（下市）本町町年寄であった佐藤家の町方の基本的記録である。その期間は、延宝五年（一六七七年）から天保九年（一八三八年）の一六一年に及んでいる。これまで八冊分の史料集を刊行してきており、その内容は比較的長期間にわたる水戸藩の法令の記録や、町内の諸事件等も含んでいる。中には、延宝八年（一六八〇年）から享和三年（一八〇三年）までの「問屋御用留」五冊も含まれている。

本史料集はその最終巻である九分冊であり、「件名目録」として、内容を読み取ると共に、年代・件名・発給関係などの記録を行っている。

このような貴重な史料集刊行の礎を築かれた、本学人文学部故河内八郎教授に改めて敬意を表するとともに、本事業の完成に地道な努力をされてきた人文学部の長谷川伸三教授と木戸之都子助手に感謝を申し上げます。

本史料集が、今後も学内外の方々に貴重な情報の提供を行うことを願って止まない。

平成十三年三月吉日

茨城大学附属図書館長 白石昌武